

平成27年度 学校評価「C評価改善案」に係る学校関係者評価 その1

		保護者	高校生	教員	総合	学校関係者評価
3	校内は、整理整頓され、清掃がきちんとできていますか。	C		C	C	総合 B
分析	保護者のみならず教員の評価も低いことから、校内美化、環境整備の問題として位置付けることが重要である。 ・各教科準備室や特別教室は、年度末には毎年担当者が整理し、不要な私物等も片付ける。 ・定期的な全校あげての大掃除の設定も必要。幼児児童生徒と職員がともに活動する機会を設ける。					(記述) 生徒の評価も大切ではないか。
4	教職員は、公平に接していますか。	C	C	A	B	総合 B
分析	教員の評価はAで保護者、高生児の評価がCとあり乖離傾向が見られる。教員が今一度自身の指導法、接し方などを冷静に振り返る。客観的な視点を持つことが大切である。 ・教員のコミュニケーション能力の向上も必要であり、マナーアップの研修会。アサーション・トレーニング。 ・教員間がお互いに意識しあい高め合う環境づくり。 ・保護者や生徒から見てつねにどのように映るかの客観的視点を持つよう自身のスキルアップを図る。					(記述) 「公平性」の評価基準があいまいではない。何をもちて公平と判断するのか？
6	自立して生きていくための、強い精神力を養う教育が行われていますか。	C	B	C	C	総合 B
分析	高生児の評価はB「できている」とある。しかし、保護者がCとあるので、本校の教育の「見える」化が重要である。教員評価のCは、教員のまだやれる。足りない。できていないという思いの表れであると考えられる。ねらい・目的を示した効果的な指導を考えていくことが必要である。できることを積極的に伸ばし、成功体験につながるプログラムを構築と、取り組み成果を保護者へ情報発信する。 ・カリキュラムや授業、学校行事やクラブ活動等での生徒の努力を保護者に積極的に報告する。 ・宿題等課題のチェックをおこない、継続することが力になることを意識させる。 ・どんな力をどこでつけるのかの分析をして、本校としてのビジョンを持って考える必要がある。 ・個々の実態に合わせて、生徒のみで行う活動を設定する。(例：配膳を生徒だけで行う) ・教師の支援を減らし、実習など外部での活動時に一人で行う場面を設定するよう検討する。					(記述) 是非、今後も続けてもらいたいです。
9	学校行事等は、達成感を味わい、創造力を伸ばす工夫ができていますか。	C	B	B	B	総合 B
分析	生徒、教員の評価はB「できている」とある。しかし、保護者がCとあるので、本校の教育の「見える」化が重要である。ねらい・目的を明確に示した学校行事を検討していく。子どもたちと向き合う時間を多くつくることも重要課題。子どもたちのできることを積極的に伸ばし、成功体験につながるプログラムを構築と、取り組み成果を保護者へ情報発信する。現在もお知らせ、たより、通信を発行し、ホームページも活用しているが、さらによりよいものにしていく姿勢のPR。生徒たちが自分のことばで保護者に伝えられる表現力や情報発信力の向上をめざす。 ・学校行事で、生徒の自主性を大切に指導し生徒が前向きに取り組んでいる様子や、行事後の感想等を保護者に伝える。 ・教師主導で行う必要もあるが、生徒の意見を取り上げたり、改善点を生徒どうして話し合える場を増やす。 ・生徒会の活動の様子を、学部だより等で保護者に伝える。 ・行事に集中できるように、会議をできるだけ減らし、活動できる環境を整える。また、生徒保護者からのアンケートを取り課題を明確にする。 ・自由記述も入れて感想も記入してもらおう。					(記述) 生徒の生き生きとした様子が一番多接だと思います。
10	一人一人のニーズや実態に応じた体験学習が工夫されていますか。	C		B	B	総合 B
分析	保護者がCとあるので、本校の教育の「見える」化が重要である。ねらい・目的を示した効果的な指導を考えていく。子どもたちのできることを積極的に伸ばし、成功体験につながるプログラムの構築と、取り組み成果を保護者へ情報発信する。 ・職場体験実習や共同学習での生徒の取り組みをさらに充実させる。 ・総合的な学習の時間等を活用し、校外で活動する機会を増やす。 ・他機関との連携のもと、日ごろの学校環境とは異なる場所での交流や体験を計画的に実施する。					(記述) 一人一人のニーズとあるから生徒の評価も大切ではなかったか。
11	教育活動を通じて、コミュニケーション能力を高める工夫がされていますか。	C	B	B	B	総合 B
分析	生徒、教員の評価はB「できている」とある。しかし、保護者がCとあるので、本校の教育の「見える」化が重要である。ねらい・目的を明確に示した教育活動を検討していく。弁論大会などの参加を保護者だけでなく内外によびかける。子どもたちのできることを積極的に伸ばし、成功体験につながるプログラムを構築と、取り組み成果を保護者へ情報発信する。現在もお知らせ、たより、通信を発行し、ホームページも活用しているが、さらによりよいものにしていく姿勢のPR。生徒たちが自分のことばで保護者に伝えられる表現力や情報発信力の向上をめざす。子どもたち一人一人が輝く場、主役になれる場を多く設けていく。 ・総合的な学習の時間や自立活動での生徒のプレゼンテーションの機会をさらに増やす。 ・話し合い活動を増やし、自分の意見を正しく伝え、また他者の意見を受け止めていく態度を育てる。					(記述) 社会の動きも配慮した「コミュニケーション力」は、どんなことを考えて実施していくことが大切だと考えます。自分の得手、不得手を伝える。どのような支援が必要かを伝えられる力が大切である。